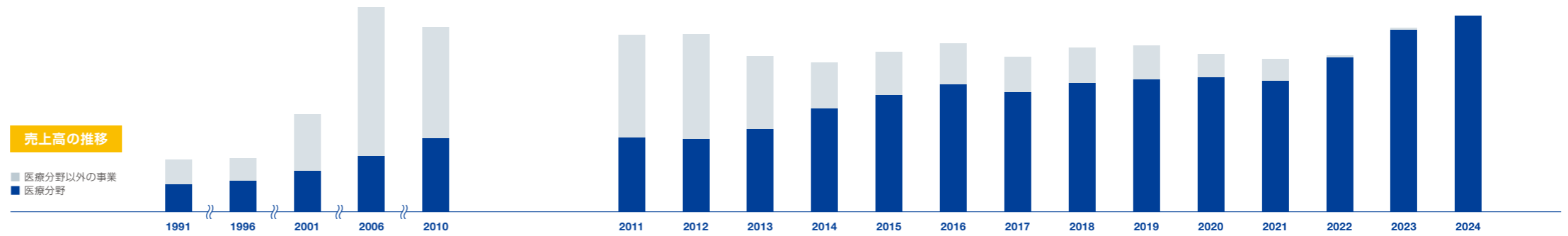


Overview

Our History



売上高の推移
 ■ 医療分野以外の事業
 ■ 医療分野

(注) 2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 2020年3月期および2021年3月期は映像事業、2022年3月期および2023年3月期は科学事業、2024年3月期は整形外科事業の売上高を除く継続事業の金額を表示しています。

1919年～1950年代 創業と経営近代化への道
1960年～1980年代 光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充
1990年～2010年 医療分野の多角化
2011年～2018年 原点回帰による経営再建ステージ、そして持続的発展ステージへ
2019年～2022年 真のグローバル・メドテックカンパニーへ
2023年～ グローバル・メドテックカンパニーとしての成長

1919 「株式会社高千穂製作所」として創立(顕微鏡の国産化を目的)
1920 当社初の顕微鏡「旭号」発売
1921 商標を「オリンパス」として登録
1936 当社初のカメラ「セミオリンパス」発売(カメラ事業に参入)
1949 社名を「オリンパス光学工業」と改称、東京証券取引所に株式上場

1964 欧州現地法人設立
1968 米国現地法人設立
1979 カリフォルニア州に米国拠点設立(現 北米最大の医療修理サービス拠点)
1989 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに現地法人設立

2001 テルモ(株)と提携
2008 中国(上海)に初のトレーニングセンター設立
 英国Gyrus Group PLC社を買収(医療分野における外科領域を強化)

2011 過去の損失計上の先送り発覚
2012 新経営体制が発足、ソニー(株)との業務・資本提携、情報通信事業を譲渡
2013 東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除
2016 医療用内視鏡関連の開発・製造拠点(会津・白河・青森)を増強(新棟竣工)
2018 「私たちの存在意義」「私たちのコアバリュー」からなる経営理念を発表

2019 企業変革プラン「Transform Olympus」/経営戦略発表
2021 映像事業を譲渡、オランダQuest Photonic Devices社、イスラエルMedi-Tate社を買収、医療分野における戦略的な方針を発表
2022 英国Odin Vision社を買収

2023 科学事業を譲渡、経営戦略発表
2024 整形外科事業を譲渡、「私たちのコアバリュー」を改定

* 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

ケア・パスイェとソリューションの歴史

医療分野の歴史はこちらをご覧ください。
<https://www.olympus.co.jp/ir/data/medical.html>

Episode 1 消化器内視鏡

世界で初めて実用的な胃カメラを開発

1949年、「日本人に多い胃がんをなんとか治したい」という東京大学附属病院・小石川分院外科の宇治達郎医師からの依頼で、オリンパスの技術陣が胃カメラの開発をスタートしました。胃の中を明るく照らす超小型電球、広い範囲を映し出す広角レンズ、フィルム巻き取り装置、体内に挿入する蛇管部分の素材選びなど、さまざまな要素技術の開発を重ね、1950年に試作機の開発に成功、2年後の1952年には製品化し、販売を開始しました。その後も、医師との二人三脚で機器の改良は急ピッチで進み、消化器疾患の診断術も飛躍的に発達しました。

Episode 2 消化器科処置具

EMR(内視鏡的粘膜切除術) / ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)手技の確立

1980年代には、医師とオリンパスの共同開発により、EMRが実用化されました。早期の胃がんや大腸がんなどの病変組織と正常組織の間に、生理食塩水を注射して膨らませ、スネアで病変を切り取る内視鏡治療であり、開腹手術に比べて患者さんへの負担が少ないのが特徴です。処置具の発達により、2002年にはより広範囲の早期病変を切り取ることができるESDも登場しました。オリンパスは医師の要望に応え、ESD/EMRの手技をサポートする多様な処置具を開発しています。

Episode 3 呼吸器科

より低侵襲で診断能力の高い診断法の確立

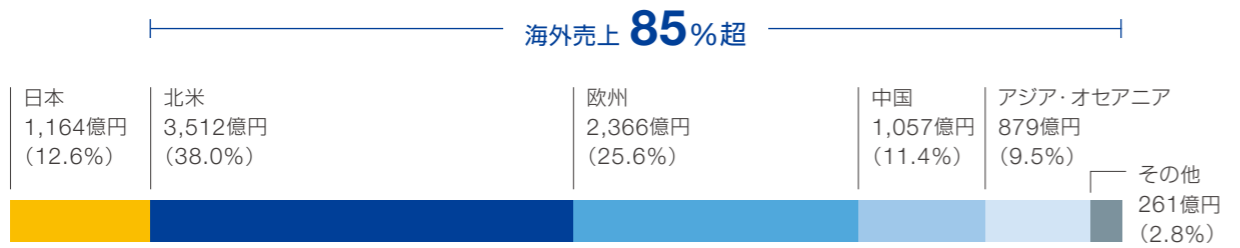
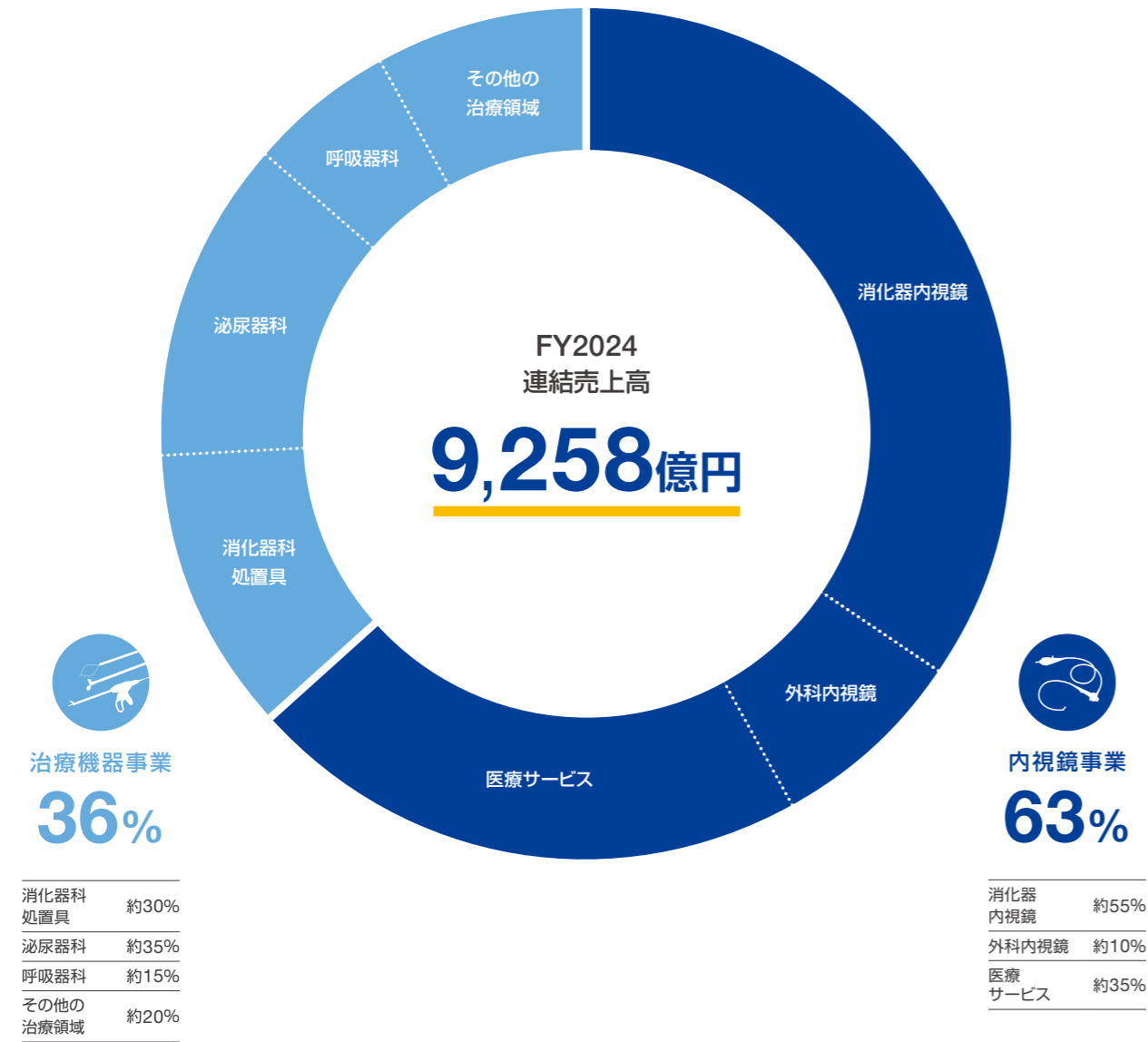
気管支壁外のリンパ節に気管支鏡を使って針を刺し、吸引生検で肺がんのステージ診断をする方法(TBNA)があります。以前は、この手技は針の先端が確認できない状況で実施されていました。オリンパスは、この手技に超音波内視鏡を使いたいという医師からの要請に応え、多くの検討と試作品の製作を重ね、2004年に超音波気管支内視鏡で針の先端を確認しながらTBNAを実施するための内視鏡と専用の穿刺針を開発・発売しました。これによって、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)という手技が普及し、低侵襲で高い診断能力を持つリンパ節転移診断法の実現に貢献しました。

Episode 4 泌尿器科

世界初の生理食塩水下前立腺切除術の実用化

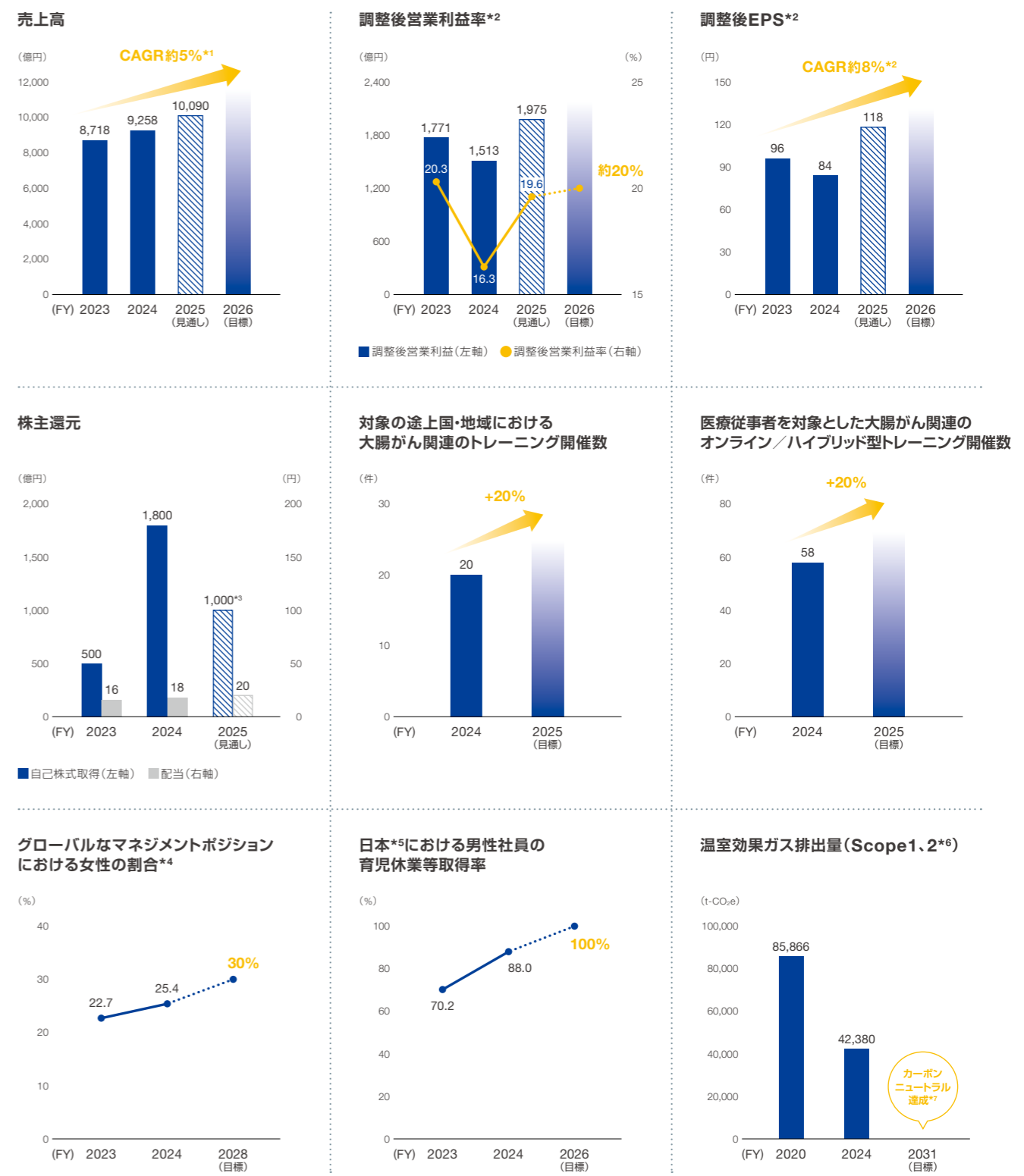
2005年、肥大した前立腺を切除するTURis(生理食塩水下前立腺切除術)という新しい術式が医師により開発され、オリンパスは世界で初めてTURis専用の内視鏡切除ループ、切除用の高周波電流を制御する高周波電源装置を開発しました。TURisでは、生理食塩水を介して電極全周を放電させて切除するので、従来よりも安定した高い切れ味を実現したことに加えて、使用する生理食塩水は従来の非電解液より安価であるなど、コストも抑制できる術式となっています。

At a Glance



(注) 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

財務・非財務ハイライト



(注) 売上高・調整後営業利益率・調整後EPSは、科学事業、整形外科事業の売上高を除く継続事業の金額を表示しています

*1 FY2023を起点に為替前提を固定して算出

*2 特殊要因調整後

- ・その他の収益および費用等を除く
- ・為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

*3 2024年11月までに1,000億円の自己株式の取得を完了しています

*4 3月11日時点のオリンパスグループの管理職

*5 オリンパス株式会社における男性社員の育児休業等取得率

*6 Scope1:敷地内における燃料の使用による直接的な温室効果ガス排出
Scope2:敷地内で利用する電気・熱の使用により発生する間接的な温室効果ガス排出

*7 自社事業所からの温室効果ガス排出量 (Scope1, 2) を削減し、残存する温室効果ガス排出量に相当する量をカーボンオフセットで相殺し全体としてゼロとする

Our Business



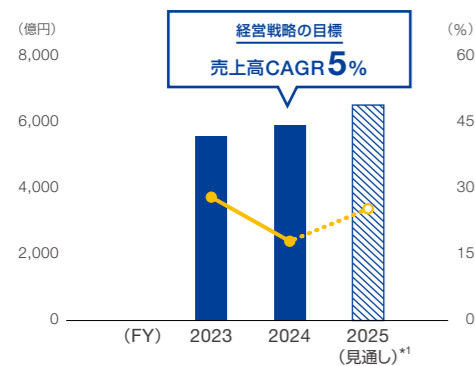
Endoscopic Solutions Business

内視鏡事業



内視鏡事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術によって、より良い臨床成果を生み、世界の人々の健康やQOL向上に貢献する低侵襲治療を提供するとともに、医療経済にベネフィットをもたらします。1950年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステムからインテグレーション、修理サービスに至るまで、さまざまな製品・サービスで医療に貢献しています。

通期実績



■ 売上高	5,518	5,866	6,450	(億円)
◆ 営業利益率	27.7	17.8	25.1	(%)
■ 営業利益	1,528	1,047	1,620	(億円)

*1 2024年11月8日公表見直し

事業環境

消化器内視鏡

- 人口の高齢化の進行、がん予防への意識の高まりによる症例数の増大
- 新興国における手技普及に向けた設備投資、教育・トレーニングの要求
- より効果的な洗浄、高度な消毒、滅菌に対する世界的な関心の高まり

外科内視鏡

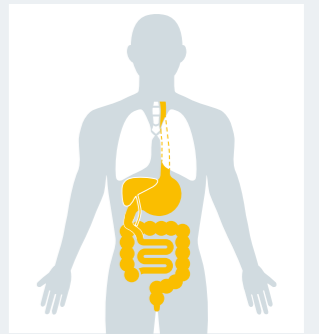
- 世界的な高齢化の進行、診断技術の普及による症例数の増大
- 新興国における新たな事業機会の開拓
- 手術の質と効率、有効性の改善への要望の高まり

消化器内視鏡

消化器内視鏡を自然開口部(口・鼻・肛門)から消化器に挿入し、良性・悪性疾患の観察、診断、ステージ分類、治療を行う

主な疾患

- 食道: 逆流性疾患、バレット食道、がん
- 胃: 潰瘍、がん
- 小腸: 消化管出血
- 肝胆膵疾患
- 大腸: がん、良性ポリープ、炎症、憩室症

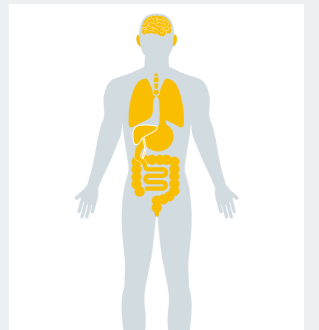


外科内視鏡

外科内視鏡を体表に開けた小孔から体腔(腹部および胸部)に挿入し、外科手術で治療を行う。また、脳神経外科手術や耳鼻咽喉科手術において、手術用顕微鏡ORBEYEは4K/3Dによる高精細な手術視野を提供

主な疾患

- 消化管がん
- ヘルニア
- 胆石
- 虫垂炎
- 逆流性疾患
- 肥満症
- 肝臓・脾臓腫瘍
- 肺がん
- 脳腫瘍と脳血管障害
- 前立腺がん
- 真珠腫性中耳炎



医療サービス

内視鏡システムの修理・サービス契約



リペアセンター

▶ 一般修理

- 各地域の修理拠点での修理
- フィールドサービスによる施設における修理(洗浄機などの設置型機器の場合)

▶ サービス契約

- 単年あるいは複数年の契約
- 修理金額の全額あるいは一部金額の補償
- 故障品修理時の代替品優先提供
- 故障予防教育の提供
- お客様保有設備の使用可能時間(Uptime)を最大化するための包括的なサービスの提供

Focus Area

エンドスコピック・ソリューションズ・エコシステム*2

臨床・業務ワークフローのデジタル医療ソリューション

▶ 「インテリジェント内視鏡医療エコシステム」の詳細はP.48へ

▶ **インテリジェント内視鏡医療エコシステム**
オペレーティング・ソフトウェアプラットフォーム

手技レポート
デジタルハブ

▶ **AIによるインサイトと検出/診断支援**

病院システムと統合して、臨床、管理、安全性、品質管理の強化をサポートするAIサポートソフトウェアプラットフォーム

▶ **手術室システム**
インテグレーション

*2 開示上、エンドスコピック・ソリューションズ・エコシステムの業績は外科内視鏡に分類されます

Our Business

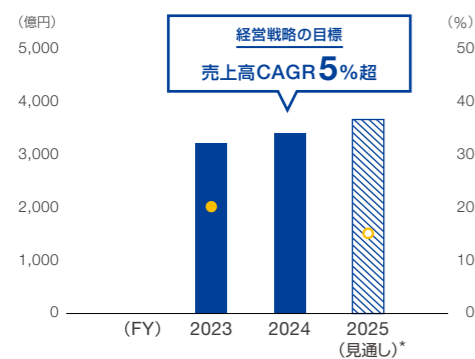


Therapeutic Solutions Business

治療機器事業

治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術によって、より良い臨床成果を生み、世界の人々の健康やQOL向上に貢献する低侵襲治療を提供するとともに、医療経済にベネフィットをもたらします。ポリープ切除用のスナア開発に始まり、処置具のラインアップ拡充や外科用デバイスの開発などを経て、さまざまな製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。

通期実績



■ 売上高	3,182	3,373	3,630	(億円)
● 営業利益率	20.0	-	15.0	(%)
■ 営業利益	637	▲85	545	(億円)

*1 2024年11月8日公表見直し

事業環境

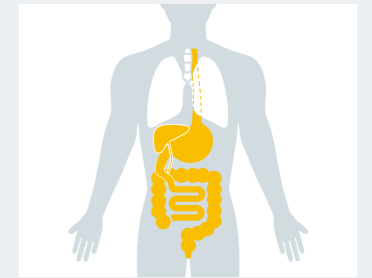
- 人口の高齢化と慢性疾患の増加に伴う症例数の増加
- 医療費削減圧力の高まりに伴う、臨床的価値と経済的価値の双方への注目、患者さんのアウトカム(医療効果)向上に焦点を当てた新しいケアモデルの必要性の高まり
- 開腹手術から低侵襲治療への移行の進行による、患者さんのアウトカム向上、総治療費の最適化
- 低侵襲な技術により実現された、低コストな治療環境(入院から外来)へ需要がシフト

消化器科処置具

内視鏡の鉗子チャンネルに挿通し、さまざまな診断・治療(組織採取、ステント留置、吻合、止血)を行うカテーテル型のデバイス

主な疾患

- 食道: 逆流性疾患、バレット食道、がん
- 胃: 潰瘍、がん
- 小腸: 消化管出血
- 肝胆膵疾患
- 大腸: がん、良性ポリープ、炎症、憩室症

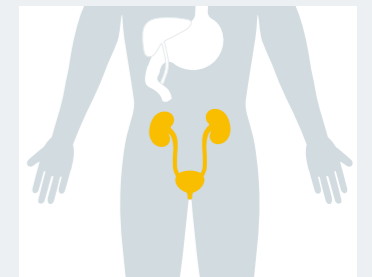


泌尿器科

腎尿路生殖器に内視鏡を挿入し、良性・悪性疾患の診断、ステージ分類、観察、治療を行う

主な疾患

- 前立腺肥大症(BPH)
- 尿路結石
- 膀胱がん

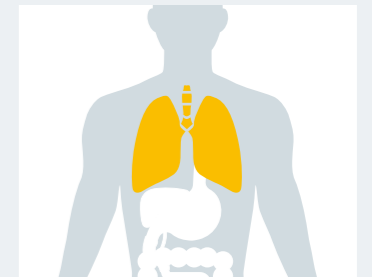


呼吸器科

気管や気管支に内視鏡を挿入し、良性・悪性疾患の観察、診断、ステージ分類、治療を行う

主な疾患

- 肺がん
- 肺気腫



その他の治療領域

耳鼻咽喉科

耳・鼻・のどにおける良性・悪性疾患の診断、ステージ分類、治療を行う

主な疾患

- 耳: 中耳炎
- 鼻: 鼻詰まり(鼻閉塞)
- 咽喉: 咽頭がん、喉頭がん、口腔がん、音声障害

サージカルデバイス

エネルギーデバイス等、外科手術で組織の把持、剥離、凝固・切開等の治療行為を行う

主な疾患

- 胃がん
- 肥満症
- 大腸がん
- 肝臓がん
- 膵臓がん
- 胆石・胆嚢疾患
- 虫垂炎
- ヘルニア
- 前立腺がん
- 肺がん
- 子宮体がん・子宮頸がん
- 子宮筋腫
- 甲状腺がん